「令和４年度　第２回　徳島県観光審議会」会議録

【日時】　令和５年２月２０日（月）　午後３時から午後５時まで

【場所】　ＪＲホテルクレメント徳島　３階　金扇

【出席者】

１　委員（２５名中１３名出席）

矢田博嗣会長、梯学副会長、佐野美佐子委員、濱野正裕委員、小倉一仁委員、
金原克也委員、近藤明子委員、近藤有紀委員、廣瀬弘享委員、武知実波委員、
東丸定子委員、西村洋子委員、池上治徳委員

２　県

商工労働観光部長、商工労働観光副部長、観光政策課長 ほか

【会議次第】

１　開会

２　議事

（１）徳島県観光振興基本計画（新計画）の素案について

（２）意見交換

３　閉会

【議事録】

１　開会

梅田商工労働観光部長から挨拶

２　議事

（１）徳島県観光振興基本計画（新計画）の素案について

（２）意見交換

事務局から配付資料に基づき、（１）について説明。その後、意見交換が行われた。

【意見交換】

（矢田会長）

ありがとうございました。それではただいまより事務局からの説明につきまして、皆様方からご質問、ご意見を頂戴したいと思ってます。

前回の皆様のご意見をなるべく事務局の方で、素案の方に反映する形で作られていると思いますけれども、皆様からこの辺のところの反映ぶり、あすいは新たな視点、それぞれの所属する会社、業界

を代表してのご意見の補足等をいただければと思います。

まだ素案づくりでございますので、なるべく皆様の発言の時間を確保したいと思いますので、効率よくご意見を頂戴したいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

（佐野委員）

前回初めて参加して資料等を見せていただいて、今回、先に送っていただいてましたので目を通させていただきました。

前回より素案が見やすくなっていたのでありがたかったかと思います。

全体的に読ませていただいて、これから２０２５年の「大阪・関西万博」開催に向けて、それと「ワールドマスターズゲームズ関西」が２０２７年５月開催、これがこれからの徳島にとって大きなイベントということで大きな柱になってくると思うんですけれども、その中でも随所に記載されておりましたけど、徳島の強み・弱みがいろいろ書かれていました。

私が一番懸念したのが「弱み」の所で、大きなイベントを控えるに当たって、いろんな徳島のいいところを見ていただきたい、それが将来の観光につながっていっていただければ、という気持ちの中で、一番懸念するのが宿泊施設が少ないんじゃないかな、と思います。

せっかく呼び込んでも宿泊施設が足りているのか、もしあったとしても基本的に富裕層の方達に来ていただきたい、ということもございますので、それに耐えうる宿泊施設がどれだけあるのかな、というのが懸念されるところだと思いました。

「大阪・関西万博」が後２年。２年で徳島の宿泊施設を思い浮かべています。

私達もいろんな会議がありまして、中四国であるとか、イベントで来ていただく時に一番困るのが宿泊施設の確保です。

一生懸命外に向かって発信して、それでお客様に来てくださいと言ったとき、(一方で宿泊施設が)今どのような状況なのか、予想するお客様の数に宿泊施設の数が充足しているのか、それが後１年半ぐらいまでにはこれだけのことが整理できます、といった計画的なものもあるのか、と。

この「強みと弱み」、いろんなところでそこが足りてません、という内容になってると思うんですけれど、それについてどうされてるのかな、ということを知りたいなと思っております。

それと、足の確保。ツアーで来られたらバスでいろんな所を回って行くんだと思いますけど、個人の方がお出でた時に、徳島の名所とか観光地をつなぐ導線というのは、ここ（計画素案）の中でもマップみたいなものを作られるとかあってたんですけど、「鳴門に降りました、大塚美術館を見学しました、そこから祖谷に行こうと思います」、となった時、いろんな交通機関で行けるんですけど、時間がものすごくかかると思うんですね。

そういう足の確保をどのような形で考えられてるのかな、と思ったりしました。

それと後、鳴門だったら、島田島スカイライン、南だったら南阿波サンラインがございます。

できた当座は本当に風光明媚で、車で走って素晴らしい景色見るところ、鳴門なんかだったら徳島に入ったら一番の玄関になりますけれども、（今は）そこを車で行ってみると何か廃墟みたいなものがあるんです。

昔のお店だったり、朽ちたような建物がいっぱいあるように思うんですけど、この間、鳴門の市長さんとお話することがございまして、撤去はなかなか難しい状況で、せっかく風光明媚な所があるのに、そういうところが何か置き去りされているんじゃないかなと、この資料もそういうことが弱みと問題提起されていて、「何かします」、ということは計画にはあるので、そういったことについて、具体的に宿泊のキャパであったり、足の確保であったりとかがもうちょっと具体的にどうされてるのかな、というのをお聞きしたいなと思いました。

（濱野委員）

資料を見させていただきまして非常に分かりやすくていい資料になっていると思うんですけど、これだけ見ますと、改めてあまりにもやることが多すぎて、全部できるのかな、と思ってしまうんですね。もっと絞りこんでもいいんじゃないかなと。

例えばの話、２５年に万博があると、ですから２４年までは万博に特化する訳じゃないですけれども、万博をメインに持っていって、２４年ぐらいから万博の後の部分も考えながら、違うところを精力的に取り組んでいくとか、そういう風にした方が何となくいいんじゃないかと。

あまりにもやることが多すぎてどうかな、ということは感じました。

もう１点、最近淡路島が元気な島になってまして、皆さんご存じの通り、パソナが入ってすごく変わりまして、観光客もどんどん淡路島に行ってますし、キャンプから何からすごい施設がいっぱいできまして、すごいなと思うばかりなんですけれども。

県もされているのかも分からないんですけど、工業団地なんかは県外から会社を誘致するというのはされてますけど、こういう開発できるデベロッパーといいますか、そういうのをいっそ引っ張り込んでくるというか、県の方が徳島を全体見まして、ここを開発すればすごいいいものができるんじゃないかとか、そういうものを県の方が作られて、開発業者を呼び込んでくるというか、土地を整備して単に誘致するんじゃなくて、そこまで何か乗っかかってできないかなと、それでいい施設ができればいいんですけどね。

非常に難しいと思いますけど、思い切って県主導でやっていただけたら、また、徳島も活性化してよくなるようなと気がするものでそういうのもお考えいただけたらと思います。

（小倉委員）

先ほど事務局の利穂課長から説明がありましたが、観光庁の方でもアフターコロナ時代に入ったこともあって、目標の見直しを含めた観光の基本計画の策定・見直しの作業が今行われています。

直近でいうと２月９日に（会議が）ございまして、同じように素案や目標が示されるなどといった形になっています。

その中で、私としても地域・県で作られる計画・方針をできるだけ国の方針に沿っていただけたらなと思いまして、その関係で意見を述べさせていただければと思います。

先ほど、説明にもありましたように基本的に３つのキーワード、３つの戦略というのがありまして、３つのキーワードというのが、持続可能な観光・地方への誘客・消費拡大という形で挙げられています。

その３つのキーワードを元に、「持続可能な観光地域づくりの戦略」が１つ目の戦略、２つ目の戦略が「インバウンド回復戦略」、３つ目の戦略として、「国内の交流拡大戦略」が挙げられています。

元々、コロナの前は、特にインバウンド戦略が国の観光行政の、かなりの大きなウェイトを占めていました。

国内の観光よりも海外からお客さんを引っ張っていくことに対して、重点的にお金をつけていくという方針もあったんですけど、今は全国旅行支援とかがあり、国内の旅行者を動かしていくといいますか、交流を推進する動きもあり、そういう形に誘導する、あるいは支援施策もありますが、やはり、インバウンドもかなり重要ですし、今後ますます重要になってきますので、インバウンドというところを強く出していただくことが私としてはいいのかなと思ってます。

今回の施策展開の中にインバウンドが５つある中で最後になってるんですね。

このあたりが若干気になりました。

もう１つ、目標として挙げられている中に、延べ宿泊者数と延べ観光入込客数と観光消費額とあったんですけど、これについてはインバウンドを含めたものになってると思うんですが、ここに外国人を誘客するということに関しての目標という部分もあってもいいんじゃないかと、国の戦略でもインバウンドに特化した目標もありますので、そういったところもあればと思いました。

後、持続可能というところで、今回のテーマにも重要なポイントに挙げられていますが、「サステナブルといえば徳島」というところが挙げられています。

２０２２のロンリープラネットというガイドブックで四国が世界で行くべき地域の第６位に選ばれて、その中の１つとして、上勝のゼロウェイストタウンが挙げられていました。

サステナブルというところが大きなポイントになったと思うので、「徳島というところはサステナブル」ということで引っ張ってくる、ブランドを確立するというのは非常にいいテーマだと思います。

そうなってくるとやはり持続可能な観光に取り組むというところも、何かしら目標としてもご検討いただくのもいいんじゃないかなと思った次第です。

私達としては国が検討している３つの戦略のところ、１つ目の持続可能、２つ目のインバウンド、こういったところに特化した目標を入れていただくとありがたいなと思っております。

（利穂課長）

ご意見どうもありがとうございました。

まず、宿泊者数が少ないということに関しましては、これまで宿泊の投資に関しまして支援を行って参りまして、引き続きこういう支援の必要性があるのかなと感じております。

それから、二次交通の話がございますが、例えば、徳島に来た人がバスの乗り放題のチケットでありますとか、フリーパスみたいなものをできるように促進していく必要があると考えております。

鳴門のスカイラインであったり、南阿波サンラインのお話がありましたが、地元から、特に鳴門スカイラインの方もお話をいただいておりますので、地元の方と協力して魅力あるものにしていければと考えております。

それから、（計画の内容が）たくさんありすぎて何かに特化してはというご指摘について、万博の２５年に向けて何をしていくかについて強調、整理して分かりやすく取り組めるようにしていきたいと考えております。

デベロッパーの誘致につきましては、ご意見をいただいたのでどういったことが可能か、また研究して参りたいと思います。

インバウンドが５番目にあるということについて、順番については国も力を入れているので、見直して力を入れていきたいと考えております。

インバウンドの目標につきましては、基本目標にインバウンドの数も含んでおるんですけれども、特出しということでは資料２のＰ１９をご覧いただきますと、インバウンド誘客ということで１０万人を目指していきたいと目標を設定しております。

こちらを踏まえた上で、全体的な宿泊者数を掲げさせていただいているところです。

持続可能な観光についての目標は、どういったことが目標にできるのか、また検討させていただきたいと思います。

（金原委員）

内容につきましては、皆さんのご意見を入れていただいているので、特段申し上げることはないんですけど、先ほど、濱野委員が仰ったみたいにどうしても総花的になりがちなので、「これは」というのは強調していただけたらなと思います。

先ほど、佐野さんが仰った鳴門と祖谷なんですけれども、まだ積極的にＰＲしてないんですけど、私らの子会社の四国交通で土日だけですけれども、三宮から阿波池田行きのバスを祖谷渓まで延ばすいうような取組をやって、途中高速バスで県内で乗降はできないんですけど、いろいろ行政当局の話をして、アオアヲと大塚から祖谷へ行く、逆方向へも行くという、土日の１、２便だけのことですけど、そういう取組もしてますし、さらに局と県と相談しながら、鳴門も止められないかということも相談しつつ取り組んでいます。

また、事業者として、自戒を込めて運転者不足についてご報告したいと思います。

私ども徳島バス２０１９年度から２７０人の運転手、２０人減りまして、積極的に減らしたわけではなく採用できずに減っていってます。

何が起こったかというと今、乗客数の回復過程の中において高速の大阪行きの続行便が出せない事態が起こってます。

今まで徳島のお客様って徳バスって満席になってもすぐ、続行便必ず出してくれるよねって期待感があったと思うんですが、出せない便も出てきています。

もちろん、予約状況を見ながら、事前に続行便をつける、運転の手配をすると、我々も努力をしていますがそんな事態が起こってます。

何が起こったかというとお客様の切符を買うウェブの比率がここ数ヶ月、１０％上がりました。

大阪・梅田まで２時間半の時間距離なので、元々予約比率が低かったんですけども、予約しないと痛い目に合う、ということでウェブの比率が１０％上がってます。

なので、いろいろ数値目標について、上げよう、上げようとお願いして、配慮してほしいと申し上げたんですけれども、私ども事業者としても足下を固めてしっかりと人を維持して、数あげていかないと消費者からのしっぺ返しを受けるということについて自戒をこめてご報告をいたします。

（近藤（明）委員）

皆さん仰ってるとおり、本当に分かりやすくまとめていただいてありがたく思っております。

私からは何点かありまして、１点目はＩＣＴを生かした街づくり、スマートシティと言われるものが進んでいる中で、観光に特化したというだけではなくて、街づくりの中のスマートシティを生かした観光戦略をしっかりと行っていく必要があるかなという風に感じました。

先程、お話のありました数値目標のところなんですけれども、量より質という話題が数年来出てますけれども、この基本目標、参考目標の数値が果たして質というところにしっかりとコミットできてるのかというと、そこまではいけてないかなというところがありますので、もう少し工夫が必要かなという気もいたします。

その質もちょっと違う質、旅行者が思う質の方で、満足度の向上が目標の中にあるんですけど、この満足度というのはどのように計られるのかなというところを教えていただけたらと思います。

次が３点目で、交通のお話が先程来出ていますけれども、交通を何か整理するだけではなくて、ちゃんと接続していくというところを考えていただいて、県の役割としては企業の間を取り持つとか、というようなところをサポートしていくというところも必要かなと思います。

コロナの中でしんどい思いをなさっている所もあると思いますので県としてはサポートをしっかりと充実させるということはやっていただくべき役割かと思います。

後はその役割というところで申しあげますと、たくさんありすぎて本当にできるのか、という話も

ありましたけど、これをもうちょっと具体の策として、施策の展開を書いてくれているんですけれど、４年間の中でどこまでするのか、というのをスケジュール間をもうちょっと区切って示されるとよりよいかな、検証もしやすいかなと思っております。

なかなか、評価するのも難しいかもしれませんけれど、しっかり区切ってする。

これ、将来像も含めて中長期的なことを書いていただいてますけれども、この４年間でどのように進められるかというのは書かれた方がいいかなと思います。

全体的にはとても、盛りだくさんでこれが実現したらいいなというような夢を抱くことができるような計画になってるかなと思います。

（近藤（有）委員）

皆様の仰ってるとおりに素案も、皆様の意見を反映していただいて、総合的に内容が充実したものになっていると思っています。

今までの意見の中でもインバウンドというところで発言があったと思いますが、円安傾向が続いていることと、ポストコロナが続いているというところで、今後インバウンドの需要が増加していくのかなと研究所でも思っております。

東京、大阪というところでは既にインバウンドが増加しておりまして、そういった動きは今後、地方の方にも拡大していくように思っておりますので、インバウンド政策の充実というところも大事なのかなと思っているんですが、その中にサステナブルツーリズムや体験型観光の推進とインバウンドとかなり親和性の高い施策を入れていただいておりますので、こちらもインバウンドと絡めて、まとめていただくと、よりいい内容になるのかなと思います。

というのも観光消費額を増加させるというお話になった時に、海外のリピーターの方が消費する額が、リピートすればするほど多くなるというデータが出ておりまして、そういった方が何を求めてくるのかというところで、サステナブルツーリズムや体験型観光という何回来ても楽しめる、新しいものがあるというようなソフト面の充実が大事なのかなと思っておりますので、ぜひそういったところもインバウンドと絡めてアピールしていただければと思います。

そういった中で皆様が仰るように二次交通というか、交通の面が課題になるとと思っております。

特に海外から来られるお客様というのは、どういう風に交通を使っていいのか、とても分かりにくいのかなと思います。

徳島県の観光推進の海外用のサイトなどを見ましても、観光のモデルコースはあるんですが、その間の移動は「by car」、「車で」となっていたり、交通案内も駅周辺のご案内というところで、どうに交通機関を使っていけば移動できるのか、というところはちょっと不十分なところがあるのかなと思っておりますので、情報発信の面で、便はなくても、今時点ではいいとは思いますが、１日１便でもこういうルートで行けば、行けます、というような具体的なルートを示してあげることが、まず観

光客を増加させるためには必要なのかなと思います。

そういったところから少しずつインバウンド客が増加していけば、例えば、観光列車を生かした、交通などの移動の時間も楽しめるような観光につなげていくことが重要なのかな、と思ってます。

特に徳島県ですと観光のスポットはあるんですが点在していて、そこを回ろうとするとかなり交通の時間が長くなってくると思いますので、そういうコンテンツを長期的に作っていかれたらいいではと思ってます。

また、情報発信という面で国内に目を向けた時に、やっぱり、県民の皆様が情報発信していただくことが一番有効な施策かなと思ってます。

徳島って「何がある」と聞かれたら、「何もないよ」と言ってしまうというのをよく皆さん仰ると思いますが、そういうところを、ちょっと難しいと思うんですが、拡充していく必要があると思ってまして、例えば県外からインフルエンサーさんを呼ばれた時に、県内でもインフルエンサーいらっしゃると思んですが、どうすればもっとインパクトというか、着目してもらえるようなコンテンツを作れるのか、学ぶような機会を設けていただいたりとか、そういう県内のインフルエンサー育成も盛り込んでいただけたらより魅力的な施策になるのかなと思います。

（利穂課長）

ご意見ありがとうございました。

先程お話しがありましたように、二次交通で鳴門から祖谷の方までバスを走らせていただいております。

こういったものも有効な二次交通だ思いますので、推進していきたいと考えております。

ICTというお話もありましたが、スマートシティということで、他部局と連携しまして観光でも使えるよう、利便性の向上につきまして、検討していきたいと思います。

数値目標の満足度のところで、詳しい者から説明させていただきます。

（事務局）

満足度の測り方ですけれども、前々から県内の10ヶ所くらいの観光地点で調査員を2名ほど派遣しておりまして、だいたい1600人位の方に対して、県内でどれくらい消費をしたかとか、どこから来てどこに抜けていくかだとか、宿泊の予定だとかをお聞きしております。

その中で、観光について点数というか5段階評価してくださいということを過去からしておりまして、今後それを続けることで、年ごとの変化が測れると思いますので、そこを目標にさせていただければと考えております。

（利穂課長）

それからスケジュール感を分かりやすいようにということでご意見をいただきましたので、来年こうして再来年こうしてということを分かりやすくできればと考えております。

インバウンドについてのご意見もいただきました。

サステナブルとか高付加価値ということで、インバウンドの中で具体的にというお話もいただきましたので、インバウンドの中で、サステナブルの取組みたいなものを充実させていただければと考えております。

交通機関の情報が不十分ではないかというご意見もいただきましたので、どうやって具体的に行ったらいいのかとかの情報発信を充実させていく必要があると思いますので、計画の中にも反映させていければと思います。

県民の方の情報発信も非常に大事だと御意見もいただきました。

仰ってるとおりだと思いますので、先程郷土愛という言葉もありましたけれども、徳島県の魅力を知っていただくことによって発信していただけるということで、地元の方々のＳＮＳの育成にも取り組んでいきたいと思います。

（廣瀬委員）

私は2月1日付けで徳島に着任いたしまして、まだ20日間という短い間ですけれども、まず第一の印象としましては「水の都」と言われている理由がわかりました。

いろんな意味でこれだけ、風向明媚な風景が各橋から眺めることができる。

非常に感動しています。

ただ、私も県外から徳島に観光しに来るに当たって、どうしても鳴門であったり、阿波おどり会館、祖谷にいくと、点々々行くことでどうしても面で捉えて、そこでしっかりと深掘りをしたと観光をしたと記憶が実はあまりございません。

先ほど、お話がありましたけども県民のみなさんが本県の魅力を伝えることがなかなかできないといったところがマイナス要因としてあるという風にありますが、一番の徳島県のシンパは、県民であるというところからいくと、県民を味方にどれだけできるのかなと「We love 徳島」といったような県を愛するという施策をうっていく必要が今後あるのかなと思います。

例えば、中国地方の広島県は「おしい！広島県」というキャッチフレーズで芸人の有吉さんを使って、プロモーションをやって、もう６、７年ほど前ですけれども少し自虐にはなりますけど、広島県は誰も来てもらっても「惜しい」と言われるんだけど、実はいいものいっぱいあるんだよ、というそういうコンセプトで結構露出がありまして、それなりに結果も出たということも聞いたことがあります。

２０１９年比、国内は２０２３年に関してですけど、２０１９年比が国内が９０％、海外が５５％旅行者数が戻ると想定がされております。

そのうち、旅行に行こうと検討している方の約半数が２０代の女性だということも統計として出ております。

非常にチャンスでありますし、万博という大きな事業が控えておりますので、ぜひそういった外向けのプロモーションと内受けのプロモーションをこれを双方でやっていくことが必要なのかなと感じました。

後、中長期的に見ると教育事業、教育旅行の誘致の取組という所をより加速させる必要性もあるのかなと感じます。

万博はどうしても単年度一過性のものであります。

それから先５年、１０年先にリピーターとして徳島に訪れていただく若い小中高生が徳島の魅力をしっかり知っていただいて、また大人になって、改めて帰ってきてもらえるという、いい循環を作りだせるのは修学旅行、教育旅行という所が非常に鍵なのかなと感じております。

インバウンドも非常に重要ではございます。

ただ今回、コロナのようなこういった未曾有の危機により、インバウンドもつまり将来的に保証がされるものではない、そういった部分もどうしても側面としてありますので、ぜひ数はやることの数は非常に増えますけど、中長期地点、それから２年後の万博、焦点をそれぞれ絞って動いていかれるのが一番いいのかなとは感じております。

何よりも徳島県に来てもらう理由づけとなるようなそういったプロモーションはぜひやっていかれると効果として上っていくのかなと感じています。

（武知委員）

前回も参加させていただきまして、私が普段海で仕事をしていたり、サーファーとして海に携わることが多いので、スポーツツーリズムであったり、海を魅力として活用するような施策を、というお話を（計画に）散りばめていただいて、非常に私もこれから楽しみだなと思う印象を受けました。

反映していただいたことを踏まえて、追加で3点ほど述べます。

まず1点目なんですけれども、25年に万博、そしてその後27年にワールドマスターズゲームズがあると思います。

皆様記憶にも新しい「東京２０２０」、まさにあの時、私も実は組織委員会のメンバーとしてあそこにいたんですけど、国民の足並みが揃っていない印象が主事レベルでも感じました。

ああいう大規模なイベントで、国民や市民に不安があると、最近の話であったり、北海道の冬季オリンピックのちょっと不安定な印象であったりというところで大規模イベントに向けてのイメージが、データを持っていないんですけれども、もしかしたら良いわけではないのではないか、という懸念もあります。

なので大規模イベントを２５年、２７年に向けて、どういう風に市民・県民の士気を県と同じくら

いの足並みまで揃えるか、というのはが非常に重要なのかなと感じました。

マイナス要因にもありますように弱みとして、委員の皆様も仰っていた、県民が魅力を発信できないというか、理解があまりできない、徳島は何もないところ、というのは私が中高生の時からよく聞いているような言葉なので、１つ２５年の万博というのはそういった県民の足並みを後２年で揃えることによって、自分の地域に愛着であったり、誇りを持てる、すごい大きなきっかけにできるのではないか、という考えています。

なので１つ具体的にぱっと思い浮かんだのが、ＳＮＳ等で徳島県がどういう風に万博に絡んでいくのか、どういう出展をするのかという情報が一消費者として、市民として、上手く情報をつかむことができていません。

ＳＮＳを見てもミャクミャク様はよく出てくるんですけれども、どういうコンテンツが２５年に徳島と絡めて出てくるのか分からない。

それが分かって、徳島はこんなかっこいいことするんや、こんなおもしろいことするんや、となったら、インバウンドも期待できると思うので、海外の友達に、徳島が「こういうの出すよ、ぜひ来て」というように、県民が関西万博を発信していくようなそういう方向づけに持って行くとよりこのマイナス要因、自分たちの県の魅力が分からないというようなところも強みにできる、２５年がもしかしたら起点になるような年にできるのかなと思いました。

２点目は持続可能な観光と書いてくださっておりました。

これから先、２０３０年に向けて、ＳＤＧｓの目標、非常に難しい中、皆様どうにかよくしようと頑張ってくださっています。

その中でサステナビリティの意識が今後、インバウンドが戻ってくることによって、海外から、より日本の観光客でもサステナビリティの意識が高い観光客というのを呼び込むことに同意を感じています。

このプラス要因にも「欧米豪において高い認知度」であったり、そういった方が来るということを想定すると「サステナブルといえば徳島」と呼び込むということは、サステナブルに対してすごく意識の高い、勉強してらっしゃる、有識者に近いような観光客の方がインバウンドに来られた場合、やはり、対有識者として有識者が対応する必要が出てくると思います。

つまり、県民のＳＤＧｓであったり、持続可能に関する知識であったり、その学びの場を増やしていく必要があるな、とすごく思います。

３点目、食を活用した誘客促進とあったんですけれども、ジビエであったり、徳島はすばらしい食材がたくさんありますので、そういったものを羅列してくださってたんですけれども、最近私が携わったところで、中四国で初めて全国で１０番目と聞いてます、農林水産省のみどりの食料システム戦略、オーガニックビレッジに小松島市が昨日入ったと思います。

また、食用のコオロギパウダーなども学校給食で全国初で導入されているので、そういうところも

食に、サステナブルとかぶるところでもあると思うですけど、逆にかぶらせていて、ここを強みにしていて発信していくというところも可能性としてあるかなと思いました。

（東丸委員）

今までの皆様の（意見）をお聞きして、説明にもありましたけれども、どうしたら来ていただけるかということを、このリーフレットにいろいろ書かれているんですけれども、来ていただけることはありがたいんと思うんですが、来ていただいてどのようにみなさんにサービスができて、きちっとした受入体制でいれるかということを一番に考えていかなければならないと思うんです。

資料１の観光客の受入環境整備というところにも書かれているんですけども、確かに重要なことではないかと思います。

受入体制と同時に考えていかないといけないのは、来てもらってからどう来てもらった方のサービスをしていくか、満足していただけるかということも並行して考えていかなければいけないと思います。

このごろ、少人数での旅行も確かに増えていると思うんですけれども、徳島の経済効果を考えてみますとたくさんの人数が１度に来ていただけるのが１番経済効果はあると思います。

それを考えたら、他府県ではどこいってもあると思うんですけれど、大きな用地に観光バスがずらっと並んで、自家用車もたくさん並んで、その横に大きなあまり高くない食堂・レストランがありまして、みなさんが自由に団体で食事ができるところもあると思うんです。

その横にはその土地土地のいろんな産物とか売店が並んでて、それを見ていたら経済効果は確かにあるなと思いながら、横目で見て通り過ぎるんですが、そういうことも徳島には必要でないかと思います。

徳島にそんなところがあったらいいんですけど、今のところないと思うので、それも同時に考えて、やっていけたらなと思います。

（利穂課長）

ご意見ありがとうございます。

内外にＰＲすべきだということで、先程来から話があります、徳島県民の皆様が自分のところのよさを知るということが大事だと思いますので、そういった観点で情報発信に努めて、計画にも入れたいと思います。

それから、教育旅行の必要性ということで、計画にも書かせていただいているんですけど、20代未満の学生さんに来ていただいて将来のリピーターになるということも大事なので、こちらも引き続き計画に入れて、しっかりやっていきたいと考えております。

それから、県民の皆様への万博の情報、いまいち盛り上がりがどうか、というお話もいただきまし

たので、情報発信を連携して皆様に知っていただくよう、万博をターゲットに明確にして情報発信も力を入れていくような計画にしたいと考えております。

サステナブルでエキスパートに近い方が来られる、ということが想定されるということですので、観光アカデミーでありますとか、場合によってはもう一つ高度な知識が必要な講座でありますとか、そういったものも今後必要になってくるのではないかな、と考えております。

食の絡みの観光について、食は必須と言っても過言ではありませんので、今いただいた意見を加えた計画にしたいと考えております。

プロモーションと同時に受入（環境整備）がなかったらというご意見もいただきましたが、仰るとおりですので、ＰＲしてもお越しいただいた観光客の皆様に満足が得られない場合はリピーターにも繋がらないということで、プロモーションと同時に受入態勢、先程も大きな施設という話もございましたが、どこまでできるかはこの場では申し上げることはできませんが、今後の課題だと思います。

（西村委員）

4期の素案をいただきまして、さすがに行政なのでほぼほぼ網羅していただいて、作っていただいているので感心したところでございます。

ただ、皆さんのご意見にあったように、全部ができればいいんですけれど、なかなか難しいと思いますので、何か一つに絞って、そこに予算なり、なんなりをたくさんつけてほしいなと思います。

何に予算をつけてくれるかと言えば、バスの運行の補助金とか宿泊の旅行割とかいろんなことがあると思うんですけど、私はここにお金をいれてほしいな、と思いますのはどうしてもＳＮＳにお金をつぎ込んでほしいなと思っております。

私達観光業は３年間コロナで大変赤字経営をしてきました。

ポストコロナ・アフターコロナに関しては自然の素晴らしいがあるところ。

で、それをどうやって出していくかとやっぱりＳＮＳしかないのかなと思っております。

ＳＮＳでバズったりとかいろいろ大きな会社にリンクを貼ってもらえるとかいろんなことがあると思うんですけど、まずは予算をつけていただいて、東京の会社を入れても何をしてもいいので、まずはＳＮＳで徳島が上に上がるようにしていただきたいなと。

結構お金がかかると思います。

東京の知人が勤めてる会社なんですけれど、年間2,000万から3,000万ＳＮＳにお金をかけております。

それでも３年、４年しないと上の方へは上がってこないし、リンクも貼ってもらえないということでした。

ちょっと辛抱がいるかなと思うんですけど、徳島はそれさえすれば、宝物がたくさんあると思ってますので、上手くいくんじゃないかなと思っております。

例えば、今、魅力度４７位の徳島県と言われても、たくさん魅力があるのでそれをＳＮＳで出していきたいなと、東京も大事なんですけれども、東京の会社とつながって、本当の現場の記事を徳島の人に書いていただいて、上へあがっていけたらなと思います。

今、そういうことに関してのご予算はどのくらいついているんでしょうか。そこを知りたいなと。

２つ目が先程教育旅行についてのご意見があったと思います。

今私どもの観光施設で教育旅行を一生懸命行っております。

今、コロナの反動で年間6,000人くらい来てくれております。

ただ、数年後にはなくなってしまうだろうなと思っております。

現在、ラフティングとか体験ツーリズムで中学生・高校生が来てくれてるんですけれども、残念なことにラフティングとツリートレッキング､それから大歩危遊覧船とかいろんなことを経験しながら、宿泊は高知と香川なんです。

200人以上泊まれる所がないということと、やっぱり四国って１つって見てくれてるので、徳島で遊んだら次は香川で泊まって次は高知へ抜けてって感じなんです。

そういうのを見ると徳島県だけが一生懸命引っ張ってくるというんではなくて、広い目で四国を巡ってもらう、若い時に四国のＰＲに青い国・四国っていうのがあったんですけど、四国は１つというような感じで引っ張っていけるように努力していただきたいなと思っております。

（池上委員）

今回の素案について、第1回の会合で出た意見を丁寧に拾い上げていただきまして、非常にきめ細やかな感じになっていると思います。

私の意見ですけど、皆さんから出された意見と同じでそれ以上のものはありません。

２点だけ重ねて要望という形でお願いしたいんですけれども、まずは県民の理解をこの計画に対して深めることに努力をしてほしいということです。

徳島にとって、観光産業っていうのがどのくらい大切であるかとかから始まって、この基本計画がどういったところを目指しているのか、万博の位置づけといったものについて、より理解を進むようにご説明いただければと思います。

もう１点は総花的なという意見を出されましたけれども、おそらく項目について優先順位をつけるとすれば、時間軸としては万博の開催の２０２５年を時間軸にして万博前、以前、万博後といったような形で区分けして、分かりやすく、それこそ県民に伝わるように優先順位をもって実行していただければという風に要望いたします。

（梯副会長）

先程から宿泊に関しまして、いろいろご要望ご意見を頂戴しましてありがとうございます。

我々の業界の実情を最初にお話させていただこうかと思っております。

ホテルとか旅館とか１室あたり作ろうと思ったら1千万から2千万単位でお金が必要になります。

ということは100室のホテルを作ろうと思うと10億円から20億円という設備投資になります。

それを30年で回収するとビジネスモデルなんですけれども、仮に20億をこの徳島県に投資するということを考えると、基本的に我が社では次20億をこの徳島県に投資しようかとは思わないです。

20億あれば、そのまんま香港に持っていって、向こうでホテルを作るという、多分そういう形になってしまうんだと思います。

ですから、宿泊者数がこれからどんどん増えて、かといってベッド数が足らないよね、ということになるんですけど、多分バスの業界も一緒なんだと思うですけれども、1台いくら、それを何年で回収するかという、僕らは投資産業といいますか、装置産業ですからそれを投資に見合うだけのこの県に魅力があるかといったら、我々業界からすると全くない、というのが現状です。

今かろうじてできているのが、レストランの内容、夕食もしないよ、というようなビジネスホテル、ナショナルチェーンの1室いくら何千円と、そういう施設がどんどんできている、ということなんですけど、これからインバウンドということになると、そういう施設ではなかなか、需要が追いつかない、ニーズに追いつかないというようなこともありますので、それをどういう形で県が観光業という形のバックアップの中でフォローするのか、他県の大きい温泉地なんか行くと、７割型ほぼほぼ補助金でできあがってるみたいなところがいっぱいあります。

ですからそこまで県が踏み込んでいくのかどうなのか、ということもよくよくみんなで考えていかなければいけないでないんかなと思ってます。

この徳島県・宿泊者数47位とかいうことでいつもお叱りを受けるんですけども、この徳島という町が観光で生きていくのかどうなのか、真剣にそれを考えていくべき時期に来てるんじゃないかなと思ってます。

そのためには県として観光業をいかに盛り上げていくのか、また徳島県に来るためにはバスも必要ですし、JRも必要ですし、エアも必要ですし、ということになるので、そこへ公的な資金を投入するのかどうなのか、それをそろそろ真剣に考えていかないと、徳島という町で観光業というのは成り立っていかないのでないかと思ってます。

私も自分のところで宿をしてますので、ずっと感じているのはまだまだ、観光業が産業になり得ていない、家業と。

うちの施設に対していろんな補助も多少はいただくんですけど、やはり家業の域を脱していないと。

ですから銀行さんにいつもお願いに行ったりとかもしますけども、やはり、産業になり得ていないなあというのはよく感じております。

徳島県として観光業をこれから生きていくのかどうなのか、県民のみなさんが本当に考えていかないけない時期に来てるんではないかなと思ってます。

自分のところの業界のことばかり言って申し訳ないんですけれども、やはり、そういった部分で徳島県はこれから何で生きて行くのか、観光で生きていくということであるのであれば、どこかでは大きい形での投資をする所に対しての補助というのも合わせてお考えいただけたらいいのかなと思ってます。

もう1つは今回の第4期の計画に関してまして、先ほどもスケジュール感というお話もございましたけれども、この4期の中で何年になんぼ投資するのか、県としてこの年度はいくら予算をつけるのか、それを今はたちまち令和5年度の予算ですらよく分からないというような状況の中で、令和5年にいくらお金をかけるのか、令和6年にいくらかけるのか、そしたら万博の年にはこれぐらいの予算をつけようと、そういうことが大切じゃないかな、と思ってます。

多分、JTBの支店長さんなんかもお感じだと思うんですけど、たちまちこの夏の阿波おどりがどうなるんやろか、というような、今現在そういう状況ですので、既に我々の業界は来年の契約の話を今、一生懸命しています。

来年の春、お部屋を何室出しますかね、みたいなそんな契約の話がぼちぼち出てる中で、今年の阿波おどりはどうなるんやろうと、どんな規模で開催されるんだろうと、そういうことすら決まっていない現状ですので、スケジュール感の意味からいうと来年のことが決まっていかないと、なかなか観光業で生きていこうということは非常に難しいのでないかなと思ってます。

この基本計画に対して、いくら予算、今年はなんぼつけよう、来年はなんぼつけようと、その期の中の予算というのをもう少し細かくつめていかないと、今年の予算、来年の予算ということではなくて、この期の中での予算というものをもう少しつけていかないとなかなか観光業ということで、JTBさんに来年どないなるんですかということで、「さあ」と言ったら怒られますからね。

多分、そういう状況だと思いますので、もう少し予算立てをしっかりとしていただけたらなと思ってます、よろしくお願いします。

（利穂課長）

ご意見ありがとうございました。

ＳＮＳが大事だというのは、多数ご意見を頂戴しておりますので、この計画に反映して、インフルエンサー、ブロガーとか、そういった方々を使った効果的な情報発信に努めていくような計画にしていきたいと考えております。

四国は一つ、広い観点からの誘客が有効ということで、四国ツーリズム創造機構と一緒になって誘客すると同時に、徳島県の魅力も単独で情報発信しないといけないということで、徳島単独の商談会もあわせて、この二つで徳島に来ていただいて、四国に来ていただいてといった方法で今後も引き続きやっていきたいなと思っております。

ＳＮＳの予算についてのご質問をいただきましたが、後ほどご説明させていただきます。

県民の計画に対しての理解を深めるというご意見をいただきまして、仰るとおりだと思いますので、あと、万博の位置づけについて明確にスケジュール感を持ってということでございますので、考慮して計画を立てていきたいと考えております。

大きな観点から梯副会長からお話をいただきましたが、県としてもちろんリーディング産業として成長すべく支援をしていかないと考えておりますので、いただいた意見を検討させていただきたいと思います。

予算をいくらかけないといけないか、ということについては議会の承認もありますので、明確にはなかなか難しいところもあると思いますけれども、どれくらいかけてどれくらい効果が出たかという効果測定などご意見を賜ればと思っております。

（矢田会長）

皆様のご協力で、一巡終わりまして、多少時間もございますので、言い忘れた点、改めて強調したい点がございましたら、ご発言いただきたいと思いますけれども、私から一言観念を付け加えていただきたいなという部分が、金原会長から話がありましたけども、コロナの影響が残るという文言がありますけれども、それはまだまだ需要が完璧に戻らないっていう部分と一時的な需要ギャップ、ニーズと提供施設側がコロナで縮小になっている時のギャップが、2023年度には必ずあるという部分があるんで、ニーズと供給のアンバランスを上手くクリアするという部分があるのがいいのかなと個人的には思いました。

（濱野委員）

私は後2点あるんですけども、徳島の人間は、「徳島は何もない」とよく言うという話なんですけど、実際そうなんですけど、それって、各地方都市行ったら、住んでる人って、結構みんな言うんですよね。

それでどうすればもっとみんな県民・市民の人が徳島っていろいろありますよ、って分かってくれるのかなといろいろ考えていたんですけど、動画を流すしかないと思っていまして、これはシリーズもので四国放送さんにお願いするしかないんですけど、テレビで徳島のいい所ですね、眉山ってご存知のように万葉集の和歌にも歌われた言葉ですよね。

その眉山の頂上が快晴の日にドローンでも飛ばして、景色を写すと。

私県外の人が来たら必ず天気がよかったら、眉山の上をお勧めするんですよね。

そこからいろいろ回ってくれと、西の方に行けば、ベタですけどかずら橋があって、活動的にやろうと思ったら、キャニオニングとかラフティングとか、私も何回か行きましたけど、それもできると、まあ北の方に行けば、鳴門の渦潮とこれもベタですけどいろいろありますと。

南の方まで沿岸部はサーフィンするスポットとそういうのもありますし、私も実は３０年ぶりに一

昨年、サーフィン復活しまして、結構、南の方に行ってるんですけど、やっぱりいいですよね。

住んでる人間がやっぱりいいと思ってもらった方が言いやすいんですよね。

そういうことってすごい大事だと思ってまして、ですから動画を流して四国放送さんで。

次は先程仰ったとおりＳＮＳですね。

その辺でいかに市民、県民の方に分かってもらうか、これは絶対大きいと思うんです。

もう１つは学校教育ですね。

これは観光アカデミーの時もお願いしたんですけど、ぜひ徳島の歴史を教えてくれと。

やっぱり、歴史とか地理的なものとかやっぱり、学校教育でかなり小さい頃に教えこむとみんな覚えてくれてるんですね。

会津若松に行った時に、会津若松の歴史をすごい自信を持ってたっぷり言うんですね。

私も自信を持って言えるものはあるんですけど、とてもそいつに敵わないと思ったんですよね。

そういう教育って学校教育からのが絶対大事と思うので、教育委員会にもお願いしてもっと地元の教育をしてもらえたらなと思ってます。

もう1点、これから万博、ワールドマスターズにかけて、いかに徳島を売り込むかという話なんですけど、これも物産協会にお世話してもらって、関東3大阿波おどりというのがありまして、埼玉の南越谷と神奈川の大和市、それと高円寺、この3大阿波おどり、非常に集客のあるイベントでございます。

去年、夏に神奈川の大和に物産協会の青年部を中心にブースを出しましてＰＲしてきました。

中途半端に徳島をプロモーションするよりも絞って。

向こうに行ったら阿波おどりって徳島って知らない人が結構いるんですよね。

高円寺の人なんか高円寺が阿波おどりの元祖みたいに思ってる人結構いるんですよね。

やっぱり、徳島本場でっていうので。

県の方は万博プラス１泊２泊徳島って考えられてると思いますので、サーフィンでもキャニオニングでもラフティングでもいいですから、そういうのをＰＲするとか歴史、お遍路さんもそうですし、いろんなＰＲがあると思いますので、サーフィンだったら、サーフボードを送る送料を県がもつとか、細かい話ですけど何か思い切ったことをやった方がいいのかなと。

その時は観光協会とかぜひ一緒にタイアップしていかなければいけないと思ってるんですけど、その辺はまたお考えいただければと思います。

（佐野委員）

阿波おどりの話が出たので思いついたんですけど、本当に阿波おどりを徳島は大事にせないかんと。

伝統的な徳島のお祭りなんですけれども、高円寺が元祖なん違うんみたいなことまで言われていますけれども。

今、眉山のお話が出ました。時々、眉山の上を見るんですけど、大きな建物が眉山の上にありますよね。

かんぽの宿だったんですかね。今どう使われているのかは分かりませんけど。

この計画の中にも阿波おどりの最大活用とかいうのが入ってます。

阿波おどりがお盆だけのイベントということになってますけど、お盆の時だけじゃなくて、徳島に行ったら、いつでも阿波おどりが見れて、一緒に参加できて、こんなイベントってないので。

それと眉山の上、かんぽの宿に温泉ができたら、徳島を一望に見渡せて、そこが出発点で徳島の観光を始めようみたいな発想が、一つ大きなものが柱となってそこに投資をしていただいてというような、何か目玉でガッとつかみがなかったら、というのがある。

そういうことも踏まえて、ちょっと本腰入れて計画とかに書いてきれいに見せるというのではなくて、中身、どういう結果が出るのかという視点で、皆さんにご意見をいただいたらいいじゃないかなという風に思います。

すみません、思いつきで言ってますのでまとまってませんけど。

（小倉委員）

計画を拝見して言うべきか言わないべきか迷ってたんですけど申し上げさせてもらいます。

２０２５年大阪・関西万博があるとともに、西側の県に瀬戸内国際芸術祭があるんですね。

あれも、キラーコンテンツと言われてて、欧米豪の方も来られてると話もありますので、特に香川県の方は万博のお客様をいかに引っ張ってくるかとよく仰ってて、私も立場上、四国全体を見てるものとして、そういう話をよくさせてもらいます。

そうなってくるとそこは徳島県は徳島県で大阪に来た外国のお客様を呼びこんでくるというところは多分必死になってやられていくんじゃないかなということもあって、こういう計画にもあげられていると思いますが、四国全体で、あるいは香川県さんと連携してというそういう考え方というのは、何か私としてはあってほしいなと思うところはあるんですが、そういうところは計画になかなか書きづらいのかもしれませんが、そういうのは計画ではないにしろ、実体上やっていくという発想があるのかどうかとか、もしそういうお考えとかあれば教えていただけたなと思います。

（利穂課長）

ありがとうございます。

四国、香川県でありますとか、そういう連携につきましては、四国ツーリズム創造機構が基本になると思いますので、そちらでも万博にむけての誘客施策を考えていただいていると思います。

四国ツーリズム創造機構に確認したわけではありませんので、軽々には申し上げられませんが、その中で2025年にどういった連携ができるかというのを意見を出し合って、連携して誘客を進めたいと

思います。

（濱野委員）

先程3大阿波おどりの誘客ですけど、ぜひ予算を付けていただきますようお願いします。

頑張りますので。

（武知委員）

先ほどサーフィンの話をいただいたので、思い出したといいますか実例としてお話させていただきますと、基本計画の弱点のところで先ほど申し上げた県民が何もないということで、濱野委員が仰ってたように教育のところに入れていくことに効果があるのではないかなというところで、私は昨年阿南市のふるさと創生事業という公的な事業の補助金を使わせていただきまして、阿南市内の６校３３３名の児童のみなさんにサーフィンをプールで体験させていただくことをさせていただきました。

プールなんですけども、実は児童のみなさんの近く、阿南ひいては徳島・四国には世界に誇れるサーフポイント、海の環境があって、それは、近くに住んでいても知らないことなので、それを１つサーフィンということを通じて、１つの媒体として知ってもらうような目的だったんですけど、そういった活動を通して、海に行ってみたくなった、徳島が好きになった。

また、ずっと続けてる活動で１０年ぐらい前に県南の小学校であるサーファーの教頭先生が自発的にやられていたところ、１０年たって今大阪の方に就職して働いている女の子が徳島にサーフィンがしたくなって帰ってきたというような、そういった教育の側面でサーフィンを経験することで、自然と触れることによって、徳島を魅力的に思うような県民が生まれた、というようなケースを見ておりますので、ぜひそういうところも観光にも生かせると思いますので引き続きお願いします。

（近藤（明）委員）

皆さん仰ってるように本当に教育は重要で、一方で徳島は何にもない、ではなくて年に１回県の開催で高校生と話をさせていただくんですけれども、その時に本当に徳島のいい所をたくさん上げてくれるんですね。

全員が全員そういうわけではないと思うんですけれども、我々ぐらいの年代はもしかしたら、何もないよと言うてしまってるかもしれませんけど。

今の高校生とか中学生とかはこういうところがいいよというのを具体的にあげてくれています。

それはたぶん、教育の効果もたくさんあって、まず町を知ろうとか、郷土のことについて学習しようとかいう時間が我々の時代より長く持たれていて、それの効果もでてきているかなというふうに思います。

で、そういう教育ということと、もう１つ地域の方々との関わりという機会ももうちょっと子ども

達に持ってもらえたら一番いいかなと思います。

県民が県を愛することによって、もっとアピールしていって観光につながる、ということもあると思いますので、本当にみなさん仰るとおり、教育というところにも目を向けながら、観光の促進とか人材育成というところにつなげていただけたらいいかなと思います。

一点だけ言うべきか迷っていたんですけれども、県の役割の分担のところで県の役割で一番上のところで進捗の確認って書いてあるのが気になって。

ここは検証ぐらいまで踏み込んでいただけたらなと思います。

確認していただいて、どうなったのかなというのを検証しながら次のステップに、というところに、その内容だとは思うんですけど、表現をちょっと工夫いただけたらなと思います。

（近藤（有）委員）

皆様が仰るとおり教育のお話で、思いつきにはなるんですが、せっかく２０２３年度から神山高専の方が開校されるというところでとても先進的な授業をされるようなカリキュラムを拝見しておりますと、そういったところで実証的なフィールドとして徳島を使ってもらうのも手段としてありなのかなと思っておりまして、例えば、情報発信のところで今後ＳＮＳの発信力というのも求められてくると思いますので、当然カリキュラムにも含まれていると思うんですが、そういったところを徳島を使って実証してもらうとか、ＩＣＴ化についてもそういった先進的な企業、神山高専に限らずサテライトオフィスでいらっしゃる企業様と連携して取り組んでいくっていうような、そういった連携づくりというのはせっかくの機会ですので作っていただいてもいいのかなと思っております。

関係各所の方でぜひ連携体制を作っていただけたらいいのかなと思います。

（金原委員）

コロナ前の数字なんですけれども、2018年度では高速バス・大阪線がだいたい年間77万、神戸線52万、一方その年の東京線・飛行機、東京線の利用が１１１万人、ということで私どもの観光バスのお客様は大半は関東なので、基本的にＳＮＳは別として、プロモーションは関東なんだろうと思う一方で、万博というのは徳島に航空路線がないところのお客様がとりあえず関西まで来る。

その後四国へということなので、四国全体でどう見せるか、あるいは東京線以外の航空路線がないところのお客様へどうアピールできるのかというのは１つチャンスなのかと思います。

その次に県の役割として、JAL・ANA、JRグループさん、あるいはJTBさんにいかに徳島に興味もっていただけるか、なかなか競合関係にある中で議論が中々難しい関係のある会社さん同士だと思うんですけれども、そこは行政の力で結びつけて誘客できたらなと思います。

（西村委員）

皆さんの仰った徳島県の魅力を住んでるものが出すというところなんですけど、先ほど、両近藤さんが仰っられたように、どちらかというと私らみたいな70代よりも若い子に出してもらったらと思う所があります。

やはり中学生とか高校生が地元におりますので、その中で徳島新聞にこないだ出たと思うんですけれども観光甲子園っていうのがございまして、何と優勝したのが池田高校です。

県西部の方でございますので、祖谷地方の秘境祖谷の旅の企画を作って、それをプレゼンをして、優勝をしたということでございますので、そこから言うと秘境祖谷の方には池田高校が近いですし、鳴門の方は鳴門高校、南の方は海部高校がありますということで、皆さん自分のふるさとを売りたところをこういうふうに観光甲子園というのがありますので、応募していただいたり、準備するのを各観光課であったり、県民局でいろいろ力を入れてくれていると思いますので、そういうのを啓発していただいて、池高だけじゃなしにもっと県内の高校生が参加してくれたらなと思います。

（矢田会長）

皆さんからいろんなご意見を頂戴しました。ありがとうございました。

だいたいお時間も近づいてきましたけれども、観光業をリーディング産業に、という記載もありますけれども、最近は観光業は基幹産業だと、あるいは日本の経済を支える産業だという表記もいろんな紙面に踊るようになりまして、先程、投資の話もありましたけど、やはり、お金がかかるということで投資と回収のバランスを見ながら、いかにこれを進めていくか。

一方、まだまだ、SNS・DX、WiFi環境は県の皆さんの努力で整っているんですけど、県民が使いこなせているかどうか、少なくとも観光事業者、私はその代表になりますけれど、まだまだお店をやっておりながら、キャッシュレスができていない、連絡がFAXしかできんとかそういうところがたくさんあるという状況なり、行政の方からそういうところを指導するというと、上から目線ですするとなかなか反発もあるんかもしれませんけど、やっぱり、観光協会とかいろんな業界を通じて、事業者からも脱皮していかないとなかなか地域間競争に勝てないと。

それをやっぱり民と学、この辺の行政に対するフォロー運動、一体とした応援も大事なのかな、と改めて感じました。

それではだいたい時間となりましたので、本日の各委員からのご意見を踏まえまして、今後、事務局においてパブリックコメントや県議会での議論を含め調整し、最終案を作成しまして、次回観光審議会で報告させていただく予定でございます。

なお、次回開催は5月頃で事務局で日程調整をよろしくお願いします。

それではその他に事務局から連絡事項はございますでしょうか。

（事務局）

・いただいたアイデア・要望は今後の業務を進める上での参考にさせていただきたいこと
・ご論議いただいた素案は欠席の委員にも送付の上、意見をいただくこと
・議事概要について、内容を会長にご確認いただいた後、県ホームページで公表させていただくこと
・今後事務局でパブリックコメントや県議会での意見聴取を踏まえ、計画の最終案を作成すること
・次回開催は後日、日程調整の上、「最終案」について、ご意見をいただきたいこと
を報告。